

資料

関根和行著

織田作之助

著者略歴

関根 和行（せきね・かずゆき）

昭和18年2月、東京都浅草区猿若町に生まれる。

昭和44年3月、国学院大学文学部文学科を卒業。

無頼文学研究会会員。

現住所 東京都小平市喜平町860-1 小平団地
1-8-303

資料 織田作之助

発行 1979年1月1日 発行

著者 関根和行

発行者 武内辰郎

発行所 (株)オリジン出版センター

東京都新宿区神楽坂5-61

電話 03-269-0481・260-0453

振替東京0・44705

印刷 (有)三秀社

装幀 熊谷守人

定価 2000円

落丁本・乱丁本はお取替します。

オリジン出版センター

関根和行著

資料
織田作之助



まえがき

織田作之助とその作品は、現代文学の状況のなかで、今や忘却の運命にさらされているという現実を、否定することはできない。

織田作之助を愛し、彼の文学の本質を凝視しようと
する者にとっては、消滅の現象を目の当たりにして、
単に愛惜の情を燃やしなが、傍観するという消極的
な姿勢は許されまい。

このような気持から、この仕事にとりかかった。

織田作之助の生涯を展望するとき、そこにはいくつ
かの伝説的なエピソードと、ともすればジャーナリズ
ムによって描き出された虚像を孕んだ作家像が、うか
び上がってくる。

それはまた、「無頼派」などという呼称によって象
徴されるように、なにか得体の定まらない清冽と、自
虐を孕んだ言動と、そして深い悲しみを帯びたイメー

ジが、織田作之助の作家像をさらに伝説的、虚像的に
おし上げていったことは否めない。

しかし、織田作之助という一人の作家の生きざまは、
伝説でも虚像でもなく、それは正に織田自身の実像で
なければならぬはずであり、織田が、そして織田の
作品が厳密な意味において、「無頼」であるか否かの
検討も加えなければならぬ時期にきていると、私は
考えている。

そのことを胸に刻んで「織田作之助年譜」を作製し
た。

織田については、既にいくつかの優れた著書が発行
されている。なかでも大谷晃一氏の『生き愛し書いた』
(昭48・10講談社)は、その副題にみられるように織田
の伝記を扱ったものとしては、織田と作品の生涯を精
緻に描き出した研鑽の書であるといえる。

この著書にも触れられているが、織田の出生地につ
いては、いまだきめ手となる確証は見当らない。そこ
で本書では、織田及び織田の親族に関する戸(除)籍を
「織田作之助年譜」に掲載し、織田の出生が記載され
ている母たかゑの兄、鈴木安太郎の戸(除)籍を紹介す

ることから出発した。

「織田作之助年譜」の最たる試みは、織田の人間並びに作家としての生涯を、事実に基づいて蘇生させ検証することにあつたが、しかし、そのこと以上に織田の作品の生涯を確実なものにさせたいというねがいがあつた。

既刊の織田作之助選集及び全集には、中央公論社版、現代社版、講談社版、文泉堂書店版等があるが、なかでも「初めての完璧全集」と銘うたれた講談社版全集、講談社版の改訂版とも目される文泉堂書店版全集にもいくつかの未収録作品があることを発見し、それらの作品については、できうるかぎり本年譜に採録した。

一例を挙げれば「啞の一手」「働く人々の望むもの」

「東京さん／＼」などであるが、ことに実業之日本社発行の単行本『怖るべき女』(昭22・3)や、これまでに刊行されてきた織田作之助選集、織田作之助全集に収録されている「怖るべき女」は、いずれも第「八」章が省かれており、意図的に省略したものか否かはともかくとしても、私には大きな発見であり驚きであつた。

これまで、研究諸家により定説化もしくは確証され

てきたと思しき織田に関する事柄や、作品の発表月日等についても、異説や誤りがいくつか指摘され、これらについてはできうるかぎり諸説を引き、筆者の調査を加えて解説、加筆、訂正をほどこした。

織田は周知のとおり、デビュー作「夫婦善哉」から「世相」(もしくはそれ以後の作品)まで、慘憺たる酷評に身を挺してきた作家である。

ことに「世相」においては、悪達者の見本、情痴趣味などといった作品評価とあいまって、一流への反抗、東京文壇への挑戦、斬り死などという悲壮めいたイメージがかさなり合い、織田の虚像にちかい一面が拡大されて、ややもすれば作家や作品の歪んだ理解やイメージが、狭巷の説という但書を付すにせよ敷衍されてきたことは否定できない。

そこで、作家としての織田とその作品が、当時どのように理解され評価されていたか、また、それらの理解や評価を織田がいかにうけとめていたかを、事実をもとに把握し、現時点からその理解や評価を再検討するための資料になればとのねがいから、「海風」並びに「大阪文学」の編集後記、織田の存命中に掲載された

織田至乃は、作品に関する評文をできうるかぎり収録した。

「織田作之助著作目録」「織田作之助全集未収録作品目録」「織田作之助参考文献目録」は、原物に当たるところを原則とし、「織田作之助著作目録」の「著書」には、織田の筆による、あとがき、作者ノート、後記等をあわせて収録した。

不十分ながら本書が織田作之助の作家研究、作品研究、評論等に幾許かの参考となり、今後の研究の促進剤となれば幸甚であるとともに、誤りやお気づきの点をお教えいただければ幸いである。

本書は、私の大学時代からの恩師である阿部正路先生のご指導により、また、大谷晃一、熊王徳平、伴悦、山田多賀市、矢島道弘、近藤馨の各氏をはじめ、諸氏のご教示によって完成した。改めて厚く御礼を申し上げますとともに、出版にお骨折りくださったオリジン出版センターの武内辰郎氏のお力添えに、心から感謝の意を表したい。

昭和五十三年九月十日

関根 和行

織田作之助 目次

年譜

9

著作目録

133

全集未収録作品目録

187

参考文献目録

193

織田作之助年譜

一 本年譜は、青山光二編「織田作之助年譜」(昭45・10・12「織田作之助全集8」講談社、昭51・4・25「定本織田作之助全集第八巻」文泉堂書店)、大谷晃一著「生き愛し書いた織田作之助伝」(昭48・10・8講談社)を参照し、本書の「織田作之助参考文献目録」に記載した文献の記述や、筆者の調査をもとに作製した。

一 織田作之助の歳は満歳である。

一 異説のある項目については、文献および筆者の調査内容を記入し、明らかにした。

一 本年譜に記載した左の文献については、次の略号で表示した。

(イ) 青山光二編「織田作之助年譜」(昭45・10・12「織田作之助全集8」講談社、昭51・4・25「定本織田作之助全集第八巻」文泉堂書店)

(ロ) 織田昭子著「わたしの織田作之助」(昭46・2・5サンケイ新聞社出版局)

(ハ) 大谷晃一著「生き愛し書いた織田作之助伝」

(ニ) (昭48・10・8講談社)
稲垣真美著「可能性の騎手 織田作之助」(昭48・10・30社会思想社)

一 現在迄に刊行された織田作之助の選集および全集は主に次の四つであるが、これらに未収録の作品を本年譜に採録するに当たり、選集および全集を次の略号で表示した。

(A) 中央公論社版「織田作之助選集」全五巻(昭22・10・1「昭23・10・20」)

(B) 現代社版「織田作之助名作選集」全十五巻(第十四巻のみ未刊。昭31・3・31「昭32・3・31」)

(C) 講談社版「織田作之助全集」全八巻(昭45・2・24「昭45・10・12」)

(D) 文泉堂書店版「定本織田作之助全集」全八巻(昭51・4・25)

一 戸(除)籍謄本に記載されている判読不能な文字については、□で表示した。

一九一三年（大正二年）

十月二十六日、大阪市南区生玉前町五二一五番地

（現、天王寺区生玉前町二九番地）において出生。作之助の出生地については、次のように記されている。

生れた家は、大阪市南区生玉前町五二一五番地にあった。あるいは五二一四か五二一六であるかも知れない。現、天王寺区生玉前町二九番地。――

中略――作之助の出生地は、従来すべて天王寺区上汐町四丁目二七番地になっている。これは、いわゆる日の丸湯横の路地のことである。一家がそこへ移ったのは、ずっと後年の大正十五年だった。

そのころは東区東平野町七丁目二六〇番地で、谷町筋の家からいえばその裏町にあたる。

作之助の出生地については、戸籍上からもその手がかりはなく、大阪市岸和田市役所に残されている戸（除）籍に、「本籍ニ於テ出生母鈴木たかゑ届出大正貳年拾壹月参日受附入籍」とあるのが唯一である。「本籍ニ於テ出生」の「本籍」とは、「大阪府泉北郡山瀧村大字大澤四百参番地」であるが、大正十一年五月二十七

日に、「泉北郡山瀧村大字大澤六拾壹番屋敷戸主鈴木正光」から分家しており、前記した「本籍」は分家に伴って定められたものと思われる。従って作之助が「大阪府泉北郡山瀧村大字大澤四百参番地」において出生したとは、考えられない（妹の登美子については同戸籍に、「大阪市南区天王寺生玉前町ニ於テ出生」とある）。従って冒頭に記した作之助の出生地は、(イ)の「織田作之助年譜」に基づいた。(イ)には、「大阪市天王寺区上汐町四丁目二七」において出生したとあるが、これは大谷晃一が指摘するとおり誤りである。青山光二説の「上汐町四丁目二七」についてみれば、大阪市天王寺区役所交付の戸（除）籍謄本に次のように記されている。

大正拾五年壹月壹日土地名稱□地番両変更ニ付
本籍欄中「東平野町七丁目二百六十五番地」ヲ「上
汐町四丁目十七番地」ニ更正

更に、

大阪市天王寺区上汐町四丁目二十七番地ニ転籍届
出昭和六年八月貳拾貳日受附

とあることから、作之助の出生地は「大阪市天王寺区上汐町四丁目二七」でないことは明らかである。な

お、作之助の生年月日についてには、

大正二年癸丑十月二十六日、作之助は生れた。

星は六白金星。時代は大正に入つて、一年とはたつていない。この日付について、異説が一つある。十月十七日である。のちに、東平野尋常高等小学校へ入学したときに、十七日と届け出ている。入籍したのが、十一月三日だった。出生届が遅れたので、ぎりぎりの二十六日にしたとも考えられる。当時の戸籍法では十日以内に届けねばならなかった。一方、入学時の届けにも信を置けないふしもあることは、あとで述べる。本当に生れた日と戸籍には、ずれがあったかも知れません。長姉タツがこう言う以外に、何の決め手もない。

と記されているが、本年譜における作之助の生年月日は、戸籍にある「大正二年十月二十六日」を採った。父鶴吉、母たかゑの長男として生まれたが、母方の反対から鶴吉とたかゑの婚姻届がなされていなかったため、たかゑの兄である鈴木安太郎の戸籍に甥として登載された。なお、作之助の四姉、タツ、千代、コト、きく、そして妹の登美子もそれぞれ安太郎の戸籍に姪として

登録されている。鈴木安太郎の戸籍は次のとおりである。

○大阪府岸和田市役所交付戸(除)籍謄本

・本籍 大阪府泉北郡山滝村大字大澤六十一番屋敷

・前戸主 亡兄鈴木楠太郎

・戸主 鈴木安太郎 亡父佐重郎二男 明治七年十二月一日生

明治二十六年一月二十五日相続 池田トクエト婚姻届出大正四年七月参拾老日受附大正拾年五月 尙日本籍ニ於テ死亡同居者鈴木トクエ届出同月 日受附 大正拾年五月参拾老日鈴木正光ノ家督相続届出アリタルニ因リ本戸籍ヲ抹消ス

・母 たけ 亡父佐重郎妻 天保十二年四月一日生 文久三年三月十五日同府同郡南松尾村大字春木

亡松山安治二女入籍ス 大正貳年尙月拾七日午后 参時死亡同月拾八日届出同日受附

・姉 婦しゑ 亡父佐重郎長女 明治四年六月二十七日生

明治二十九年三月二十七日大阪府泉郡山滝村大字 大沢 北川喜代松ニ嫁ク

註 泉郡は泉北郡の誤りである。

- ・妹 たかゑ 亡父佐重郎二女 明治十四年四月二十一日生

泉北郡山滝村大字大沢四百参番地ノ老分家届出大正拾壹年五月式拾七日受附除籍

- ・兄妻 トラ 亡兄楠太郎妻 慶応三年十月十日生

明治二十五年六月四日同府南郡山直上村大字積川池田治作長女入籍ス 明治二十六年十二月十九日同府南郡山直上村大字積川池田治作方へ離婚ニ付復婦ス

註 南郡は泉南郡の旧郡名である。

- ・妹 辰乃 亡兄楠太郎長女 明治二十五年六月六日生

明治貳拾六年一月二十四日□□二□□

- ・子 常一 明治四拾壹年拾壹月式拾八日生

明治四拾壹年拾貳月六日出生届出同日受附

- ・姪 タツ 妹たかゑ 女 明治参拾七年貳月式拾五日生

明治四拾参年参月七日出生届出同日受附

大正拾壹年五月式拾七日母たかゑ分家ニ付共に除籍

- ・妹^註 千代 妹たかゑ 女 明治参拾九年貳月拾壹日生

明治四拾参年参月七日出生届出同日受附

大正拾壹年五月式拾七日母たかゑ分家ニ付共ニ除籍

註 千代については「妹」となっているが、母たかゑの子として届けられており、「妹」は「姪」の誤りかタツの妹を意味するものと思われる。

- ・姪 コト 妹たかゑ 女 明治四拾参年参月壹日生

明治四拾参年参月七日出生届出同日受附

明治四拾参年六月拾壹日午前九時死亡同月拾五日出生同日受附

- ・子 松太郎 明治四拾参年拾貳月拾七日生

明治四拾参年拾貳月式拾日出生届出同日受附

- ・姪 きく 妹たかゑ 女 明治四拾四年八月拾六日生

明治四拾四年八月式拾五日出生届出同日受附

- ・子 かなゑ 大正六年七月参拾壹日生

大正拾壹年五月式拾七日母たかゑ分家ニ付共ニ除籍

- 大正六年八月六日出生届出同日受附大正参年八月六日午后拾壹時死亡同月七日届出同日受附
- 甥 作之助 妹たかゑ 男 大正貳年拾月貳拾六日生
- 大正貳年拾壹月参日出生届出同日受附 大正拾壹年五月貳拾七日母たかゑ分家ニ付共ニ除籍
- ・子 萬次郎 大正貳年拾貳月壹日生
- 大正貳年拾貳月拾日出生届出同日受附受理
- ・子 さざゑ 大正参年拾貳月四日生
- 大正参年拾貳月拾貳日泉南郡有真香村大字土生滝七二番屋敷戸主 堀池シンノ子出生同時ニ認知同日届出同日受附 大正参年拾貳月拾貳日出生届出同日受附 大正五年拾貳月七日午后八時本籍ニ於テ死亡戸主鈴木安太郎届出同日七日受附
- ・妻 トクエ 明治貳拾年参月参拾壹日生
- 泉北郡山滝村大字内畑九拾参番屋敷戸主池田房吉長女大正四年七月参拾壹日鈴木安太郎ト婚姻届出同日受附入籍
- ・姪 登美子 妹たかゑ 女 大正四年拾月拾五日生

- 大阪市南区天王寺生玉前町ニ於テ出生母鈴木たかゑ届出大正四年拾月貳拾貳日受附入籍
- 大正拾壹年五月貳拾七日母たかゑ分家ニ付共ニ除籍
- ・長男 正光 父鈴木安太郎 母トクエ 長男 大正五年貳月貳拾壹日生
- 本籍ニ於テ出生父鈴木安太郎届出大正五年参月貳日受附入籍
- ・貳男 福治 父鈴木安太郎 母トクエ 貳男 出生大正六年拾月参日
- 本籍ニ於テ出生父鈴木安太郎届出大正六年拾月拾五日受附入籍
- ・長女 イトエ 父鈴木安太郎 母トクエ 長女 出生大正八年四月参拾日
- 本籍ニ於テ出生父鈴木安太郎届出大正八年五月八日受附入籍
- この戸籍に登録されている松太郎、萬次郎、さざゑは、たかゑの実兄鈴木安太郎と堀池シンとの間に生まれた子供である。
- 松太郎と萬次郎については、戸主鈴木正光の戸籍にも記されている。